

















久高島カベールの植物群落

「カベール」とは島の北東部に展開する塩地～帯水帯地、島の入り口を形成してきた植物群落です。

ここでは、アヅサやササキ科の植物群が優勢な植物群落の断面図を示しています。潮高を計り、植生帯、帯水帯の位置が示されています。アヅサの根は地下に深く伸びていて、帯水帯の水分を吸収しています。また、アヅサの根は地下に深く伸びていて、帯水帯の水分を吸収しています。



- | | | | |
|---|--|---|---|
| <p>1 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>2 ササキ科 (ササキ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は狭長で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>3 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>4 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> |
| <p>5 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>6 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>7 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> | <p>8 アヅサ (アヅサ科)</p>  <p>潮間帯から干潟にかけての塩地に生育する多年草。葉は厚く、肉質で、葉の裏面に白い毛が生えている。花は淡紫色で、筒状の花冠を持つ。根は地下に深く伸び、帯水帯の水分を吸収する。</p> |

記念村教育委員会 2000年 3月



























ご協力ください

久高島フボー御嶽は、神代の昔から琉球王府と久高島の人々が大事に守ってきた聖地です。神々への感謝の心と人々の安寧を願う場所であるため、何人たりとも出入りを禁じます。



久高神人・久高区長・島民一同
沖縄県南城市教育委員会



久高島フボー(クボー)御嶽 (南城市指定史跡)

「東照宮」とは、伊弉諾大神の御魂が宿りつた
と伝えられる神聖な場所です。

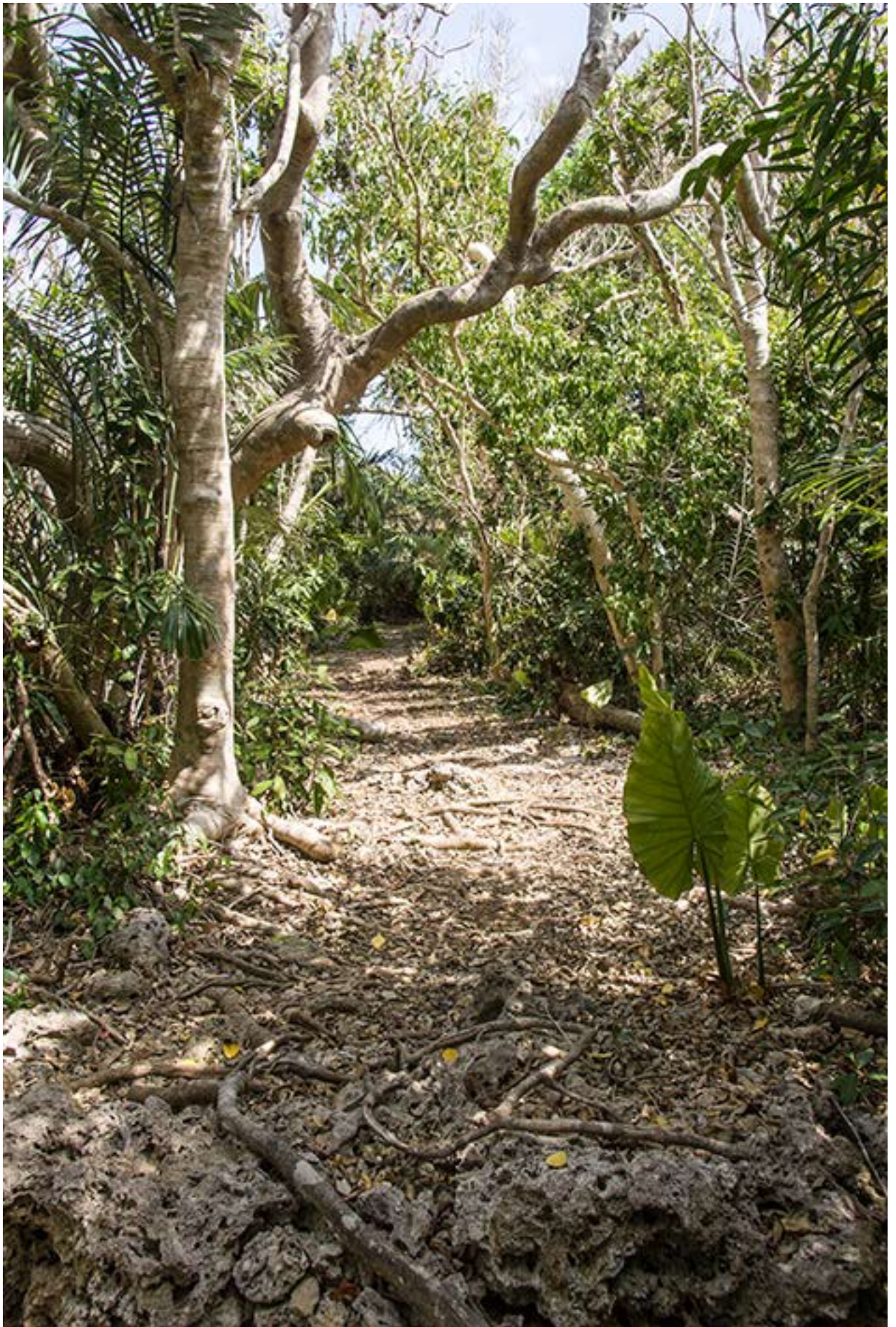
久高島の中央西側にあり、琉球間びやく神話にも登場する七御殿のひとつです。昔から霊威(セジ)高い御殿として、琉球王府からも大切にされてきました。

奥にある円形広場はイザイホーやフバワク行事などの祭祀場となっており、人々にとって最高の聖域です。何人たりとも、出入りを禁じます。



昭和51年3月1日指定
沖縄県南城市教育委員会









ボー)御嶽 (南城市指定史跡)























































